

マネジメントメッセージ

三井住友信託銀行



気候変動や感染症拡大をはじめとする地球規模の課題に対して、各国政府や企業が足並みを揃えた取り組みを進め、世界経済は緩やかながら回復傾向を辿ってきました。しかしながら、2022年はウクライナ危機によるエネルギー不足、化石燃料への回帰といった新たな課題が顕在化し、生活や産業に不可欠であるエネルギーの低廉かつ安定的な供給が重要であることを再認識させられました。

こうした新たな環境・社会課題を解決していくためには、未知なる分野の各種テクノロジーへの深い理解と、技術を学術的に見極めていくことが重要です。当社では、水素や電池、化学、電力、農業工学等の博士・修士クラスの専門家を採用し、銀行・信託の領域に科学的知見を融合することで、革新的技術を社会実装へと導いていく取り組みを推進しています。

社会実装に向けた取り組みの一例として、北九州の低コストグリーン水素製造プロジェクトがあります。安価な再生可能エネルギーの未利用電力と高付加価値な副産物を活用した「地産地消型低コスト水素事業」として、環境省の補助事業に採択されました。当社は各地域で小規模に展開する地産地消型サプライチェーンを早期に社会実装させ、スケールアップをすることで、脱炭素社会の実現に貢献し

ていきます。

脱炭素社会の実現には、産業界の巨額な資金ニーズに対し、投資家が安心して投資できる道筋・フレームワークを創り上げ「資金の好循環」を実現することが必要です。当社は投資の先導役となって「投資が投資を生む」「投資の力で資金を動かす」ことで、主体的・能動的に、資金の好循環における中核的役割を果たし、新たな市場を創造していきたいと考えています。昨年度に発表したApollo Global Management, Inc.グループやEnergy Capital Partnersなどとの提携は、まさしくこの戦略の一環です。多様な投資家に魅力ある投資機会を提供していくことで、投資の民主化を図り、市場や社会を変革することに挑戦します。

私の信条は「チームで勝つ」です。目的意識を共有した仲間が、利他の心で行動することが、個人の力をチームの力へと昇華させることができると考えています。当社は、自らの存在意義、パーパスを「信託の力で、新たな価値を創造し、お客さまや社会の豊かな未来を花開かせる」と掲げています。このパーパスの下、多様性あふれる個々の力を結集し、私たち一人ひとりがさまざまなステークホルダーの持続的成長を支えるベストパートナーとなることで、こうした環境・社会課題に真正面から取り組んでまいります。

三井住友トラスト・アセットマネジメント



三井住友トラスト・アセットマネジメント
代表取締役社長

菱田 賀夫

新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻という二つの大きな問題は、日々の働き方から、政治メカニズムや人権問題などに至るまで、従来の考え方を見直そうとする動きや新しい考え方が登場し、一層先行きが見えにくい時代に突入してきました。

こうしたなか、ESG課題やサステナビリティ向上への取り組みにおいても、社会、企業、投資家のそれぞれが考え方や信念、行動の真価が問われており、“ESGの局面変化”が進んでいるのではないかと感じております。つまり、「浸透」から「洗練」、「総論」から「各論」、「単眼」から「複眼」、そしてそれらの結果としての「一過性のESG」から「持続的なESG」への変化です。このようにESG課題は時代の変化にさらされながらも、課題への対応とそれによるサステナビリティ高度化の優先順位は不変であり、むしろ、変化を踏まえてより長期的な観点からESGに十分配慮した対応を行うことが今後一層重視されると考えています。このような視点に立ち、国連責任投資原則(PRI)への署名機関として、社会や企業の変化をしっかりと捉えたエンゲージメント、議決権行使、投資への反映を行い、お客さまからお預かりした資産のリターン最大化という使命を全うしてまいります。

三井住友トラスト・アセットマネジメントは、地球規模での広い視野を持って、多様なステークホルダーとさまざまな思いを共有し、より良い未来につながる可能性を探求し続け、経済的な価値に留まらない真の意味での豊かな社会の創造に挑戦する会社です。お預かりした大切な資産を長期にわたって成長させることを通じてESG課題への対応を進めることで、グローバルベースでのサステナビリティ高度化と同時に、お客さまにとって必要不可欠かつサステナブルな運用会社であり続けることを目指します。

日興アセットマネジメント



日興アセットマネジメント
代表取締役社長

ステファニー・ドゥルーズ

2022年、世界情勢は混迷を極めました。日興アセットマネジメントは長期的な視野に立ってお客さまへの受託者責任を全うすることに全力を注ぎました。世界最高水準のESG運用を実践する継続的な取り組みの証として、当社はアジアの資産運用会社として数少ない英国スチュワードシップ・コードの署名機関の一つとなりました。

当社は、今後10年間で運用資産を倍増するというグローバル成長戦略を掲げ、その実現に向けて組織的な取り組みや他社との連携を進めています。より堅牢なESG運用体制の構築に向け、社長と最高投資責任者(CIO)直属の専門組織を設立し、グローバルな連携を強化しました。さらに、投資先企業とのエンゲージメント方針を示した「エンゲージメント&スチュワードシップ戦略」を策定しました。対外的な取り組みとしては、経済産業省が2050年のカーボンニュートラル社会を見据えて公表した「GXリーグ基本構想」への賛同を表明しました。

当社自身のコーポレート・サステナビリティに関しても、昨年からの取り組みを発展させています。女性管理職比率を引き上げる目標達成のため、採用プロセスの強化や柔軟性の高い働き方の確立、メンター制度の導入などを含めた、各地域に合わせた行動計画を策定しました。また、事業活動による温室効果ガス排出量の削減目標を達成するため、航空機利用による排出量に対する社員意識を高める工夫を施しました。サステナビリティ活動に取り組む社内グループに自主参加する社員は100人を超え、サステナビリティが企業文化に着実に醸成されつつあります。

我々は持続可能な未来に貢献しながら、長期のビジネス目標を達成するために正しい方向に進むことができていると確信しています。